
仮面ライダー×魔法少女 5 5 5 MAGIKA 超スピンオフ！

亜雲AZ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー×魔法少女 555 MAGIKA 超スピンオフ！

【Nコード】

N1068X

【作者名】

亜雲AZ

【あらすじ】

人気御礼！ついにあの超スピンオフが帰ってきた！ここならではのファイマギメンバーの顔が…！？本編のネタバレを含みますので、閲覧には気をつけてください（一応注意はつけておきますが、できれば最新話を読んだ上での閲覧をお勧めいたします）

FILE 1 【陳情！ライダー変身！！前編】

まどか「皆！ 555 MAGIKAを応援してくれてありがとう！
なんと、先日ついに50000アクセスを突破しました！」

さやか「おおー！」

マミ「ところで、今私たちが写ってるのってもしかして……」

まどか「はいマミさん！ なんと、あの超スピノフが連載になつて帰ってきましたー！！」

三人「「「これからも、ファイマギをよろしくお願いいたします！
！」「」

杏子「大変だああああ！！！」

さやか「おっ！ スピノフ限定登場の佐倉杏子ではありませんか
ー！！」

杏子「限定じゃねええええええ！！ 先行登場だよ！ んなことよりも大変なんだよ！」

マミ「佐倉さん、いったいどうしたの！？」

杏子「ほ……ほむらが……！」

まどか「ほむらちゃんに何かあったの！？」

杏子「ほむらが……やさぐれた」

三人「「「……は？」「」

ほむら「あなた達はいいわねえええええオルフェノクに対抗できてー!! 私なんて……私なんてえええええええええ!!」 ロケツ
トランチャー連発

三人「「「キャラが微塵も残ってなあああああいッ!!!」」」

ほむら「どうせ佐倉杏子も、美樹さやかもオルフェノク倒す展開あるんでしょ!? それに比べ、無力な私はあああああ!!!! ギ
ガントでも無ければ無理よ!」

Exceed Charge

ファイズ「とりあえず落ち着け」 ファイズサウンダー

ほむら「ほむっっっっっっっ!!!!」 ちゅどーん

全員「「「ハイパーバトルビデオから持ってきたあああ!!!!?」」」

「

~~~~~

ほむら「私も、仮面ライダーになりたい」

巧「それが本音だな」

マミ「陳情……ね」スッ つバラ  
まどさや「マミさん!？」

巧「というわけで、今日は特別にある奴を呼んだ。まさに最終兵器  
!」  
まどか「それっていったい……?」

門矢士（以下「士」）「通りすがりの仮面ライダーだ、覚えておけ  
!」

全員「「まさに世界の破壊者<sup>さいしゅうへいき</sup>iiiiiiii!」!」!」

士「さて、お前が仮面ライダーになりたいと言ってる奴か」  
ほむら「ええ。さつさと頼むわ」

士「なつてないな。『お願いします』、だろ？」

ほむら「……よろしくお願いします」

士「よし、というわけで……変身!」

K a m e n R i d e D E C E D E

ディケイド「仮面ライダーに変身だ!」

さやか「完全にノリが超スピノフ……」  
巧「これも超スピノフだからな」

【ケース1 制限皆無の仮面ライダー龍騎】

ディケイド「クウガ以前のライダー、アギトは無理だからな、カードデッキライダーの龍騎から変身だ。今回は鳴滝の全面協力でオーディンを除くデッキ+アビスを用意したぞ」

鳴滝「この中からディケイドを倒すライダーが生まれるかもしれないからな」

ほむら「……」スツ

ディケイド「おっと、掛け声を忘れるのはアウトだ。ちゃんと『変身』と叫べ」

ほむら「その必要はないw」

鳴滝「いいやある！ ライダーとは掛け声が肝心だ！ これがなければライダーではない」

杏子「じゃあ響鬼はどうなんだよ」

鳴滝「……響鬼は元々ライダーの企画物ではなかったから例外だ！」

杏子「都合のいいおっさんだなあ」

ナイト（さやか）「おおー！ これいいわー！」

ほむら「私が主役の企画で何やってるのよー！」

まどか「駄目？」

ほむら「いいえいいわー！」

さやか「差別反対！」

まどか「じゃあ……変身ッー！」ピキーン

龍騎（まどか）「はあああッー！」シャキーン

杏子「流石主人公、似合うな」

王蛇（巧）「ふっ」手首スナップ

全員「……なんで本職の主人公は悪のライダー選択してんだあああああー！」

龍騎（まどか）「でもなんでだろ！ 似合うよ！」

ナイト（さやか）「草加の方が似合う気もするけど。首回し的な意味で」

杏子「まあ、チンピラみたいな奴だからな、たく……いぬ……むう……」

マミ「まだなんて呼ぶか決まってるのね。本編でてないし」

杏子「いやでてるわ……っと、マミこれ使え」 つカードデッキ

マミ「いいけど……変身！」

龍騎（まどか）「……」

ナイト（さやか）「……」

ゾルダ（マミ）「……」

王蛇（巧）「……ハイパーバトルビデオか」

Dアギト「黒歴史を持つてくるか」

全員「……そういうあんたもちやつかり空気呼んでんじゃねえよ！」  
「」

巧「さて、杏子も使え」

杏子「あれやらせたいだけだろ……変身！」

王蛇（杏子）「……食うかい？」

ナイト（さやか）「違和感なーし」

アビス（巧）「鮫ライダーと聞いて」

王蛇（杏子）「確かにファイズも裏モチーフ鮫だっけか」

シザース（マミ）「皆、これはどうかしら！」

全員「……なぜよりもよってそれチョイスした!!?」  
「」

オーディン（キュウベえ）「僕と契約してかめ……魔法少女になつてよ！」

全員「……オーディンないんじゃないかなかったのかああ！でも契約厨だけに似合うわ……！」

キャツキャツ

タイガ（ほむら）「……次」  
ディケイド「……わかった」

【ケース2 オンドウライダーと音撃戦士】

ディケイド「今度はブレイドだ！ こつちも比較的制限は低い！」

ブレイド（さやか）「私は正義の味方になるんだ！」

ギャレン（マミ）「私の体はボロボロだ！」

ディケイド「お前達似合いすぎだ」

ブレイド（さやか）「褒めすぎだつてチーズ」

ディケイド「誰がチーズだ」

レンゲル（ほむら）「……次い！」

さやか「マミさん！ これお願いします！」

マミ「？ ……ええ。変身……」キーン

響鬼（マミ）「たあぁー！」

さやか「よし、もういいつす」

響鬼（マミ）「……解除」



Dファイズアクセル「逃げたほうがよさそうだな」  
ファイズアクセル「ああ」

Start Up                      Start Up

マミ「ふう……っていやあああああああああああああああああああ  
ああ……！」

まどか「す……すっぱんぽおおおおおん……！」    鼻血ぶー  
ほむら「……敵……！」

杏子「何気に男勢逃げて……あ、キュウベえがいた」  
キュウベえ「僕は性別不明だから問題ない！」どやあ

マミ「……美樹さあん？」

さやか「すみません……出来心で」ぼっこぼこ

杏子「しかし、胸でかかったな」

【ケース3 高速ライダーと電車ライダー】

ディケイド「カブト系はゼクターに認められなければ変身できない  
！ よって、ほむら、お前は無理だ！」

ほむら「ふざけるなああああああああ……！」

カブト（巧）「……あわれ」

パンチホッパー（さやか）「なんのいじめか」

キックホッパー（マミ）「うふふー」

ガタック（まどか）「地獄姉妹にならないで……」

Mまどか「俺、参上！」

U さやか「僕に釣られてみる?」

K マミ「泣けるわよ!」

R 巧「一緒におどろ! 答えは聞いてない!」

ほむら「地味に乾巧は黒歴史をえぐられてる……」

ディケイド「次回はキバ以降のライダーに変身だ!!」

T o B e C o n t i n u e d .

**FILE 1**    **【陳情！ ライダー変身！！前編】（後書き）**

**FILE 2** **【陳情！ ライダー変身！！その2】をお楽しみに！**

## FILE 2 【陳情！ライダー変身！！後編】

ガタツク（さやか）「前はほむらの欲望からライダー変身の回となり、今回はその続き……ってなんでガタツク？」  
マミ（爆死ですねわかります）

【ケース4 変身しなさい。そして泥棒はちゃんと返してきなさい】

ディケイド「よし、今度はキバ……と行きたいところだが、今回はイクサだ」

ほむら「なぜ！？」

ディケイド「死にたいならいいぞ」

巧「キバの変身には『魔皇力』ってのが体内に流れるから、普通の人間はそれで死ぬらしい」

ほむら「……イクサでいいわ」

ディケイド「よし、ではここで特別コーチの登場だ」

名護「さあ、私についてきなさい」

全員「「本物来たあああああ！！」「」」

名護「私のことは、7・5・3、と呼びなさい」

R杏子「そんなのは聞いてない！」

さやか「リュウタロスまだいたのかよ！？ てか出てけ！」

名護「では、イクサに変身するにあたっての重要事項がある」

ほむら「……何かしら」ゴクッ

名護「それは『イクササイズ』だ！ さあ、私と一緒に！ 腕振りなさい」

ほむら「そんな暇はないわああああああ！！」

名護「そしてもうひとつ。『753は315です』！ さあ、言いなさい！」

ほむら「誰が言うかああああ！！ さつさと変身させなさい！」  
名護「駄目だ。これはイクサに変身するに当たっての必須事項なんだ！」

ほむら「じゃああなたよりずっと前からイクサだった人間はどうなの！？ してなかったじゃない！」

イクサ（杏子）「その命、神に返しやがれ！」

ほむら「ってまああた私をおいていくのかああああああ！！ これは私が主役なのに！」

杏子「753は315です！」

ほむら「ってもう毒されてた！？ 名護教に毒された！？ さやか「名護教って何だよ！？」

イクサ（杏子）「え？ イクサって『変身』と『753は315です』って言わなきゃ変身できないんじゃないの？」

全員（（ああ……この娘アホの娘だ……）（））

イクサ（名護）「さあ、次はディエンドだ」

ディケイド「ディケイドは使えるか微妙だからな」

巧「チノナマコが変身してたからな……制限は軽いのか？」

ディエンド（ほむら）「……何かいや」

巧「なんか似合ってるな」

杏子「やってること大して変わんねーもんな」

ほむら「あなたただけには言われたくないわ！」

#### 【ケース5 二人で一人？】

ディケイド「今回は特別仕様で、互いをよく思い、心を通わせている者同士で変身できるようにした」

ほむら「よし、これなら……！」

まどか「？」 まだあまり仲良くなってない

さやか「やだよ」 生理的に無理

マミ「私は別にかまわないわよ？」 ぼっち安定。ていうかむしろ敵対状態？

杏子「ふぁ……眠い」 ファイマギだとまだ会ってすらない

巧「俺も無理だな」 信頼関係とか無し

ほむら「……私ってほんとバカ」

さやか「しばかれないのか己は」

#### 【ケース6 ハルルさん公認！ オーメダル適合】

ディケイド「さて、今回の本命というべき、オーズだ！」

まどか「えっと、ここで活動しているハルルさんって人が作った適応事情を公認のもとでやらせてもらってます！」

巧「さて……ために俺が……変身！」

タカ！　トラ！　バッタ！　タットツバ！　タトバ・タットツバ！

タトバ（巧）「よし次……って、おい！？」

さやか「まさか……メダル入んないの！？」

まどか「その人に適合しないメダルは駄目なんだって」

ほむら「まさかの不遇フォームのみ……無様ね」

タトバ「……なんだと？」　切れた

スキヤニングチャージ！

タトバ（巧）「はあ！」

ほむら「そんなキック避けて……って動けない！？」

デイケイド「あいつのタトバには、「タトバキックの際に相手の拘束」、「バッタの力の増幅」などが追加されてるみたいだな」

タトバ（巧）「やああああー！」

ほむら「ほむううううー！」

ほむら「……で、私のメダルは……！」

タカ！　クジャク！　コンドル！　タ〜ジャ〜ドル〜！

タジャドル（ほむら）「ネタ的にこうなるのね次は……」

ライオン！　トラ！　チーター！　ラトラタ〜ラトラーター！

ラトラーター（ほむら）「スピードアップ的なつながりかしら……？」

さやか「ついでにあたしはわっと！」

シャチ！ カマキリ！ チーター！

シャキリーター（さやか）「タトバはできないかーコンボなんかできないか……」

シャチ！ ウナギ！ タコ！ シャシャシャウタ！ シャシヤシャウタ！

シャウタ（さやか）「なんか複雑」  
マミ「魚系だものね」

杏子「あたしはなんだろうーなーっと！」

タカ！ カマキリ！ チーター！

タキリーター（杏子）「なんとなく察しがついた。これが」

クワガタ！ カマキリ！ バッタ！ ガーツタガタガタキリ  
ツバ・ガタキリバ！

ガタキリバ（杏子）「最初に言っておく！ 作者は本気で「バカキリバ」と打ち間違えた！」

巧「分身関係か」

さやか「どうでもいいけど13人って狙ってるよね明らかに」



マミ「さて！ 私は！」

タカ！ クジャク！ ゾウ！

タジャゾ（マミ）「アレ……？」

シャチ！ クジャク！ ゾウ！

シャジャゾ（マミ）「まさか……」

サイ！ ゴリラ！ ゾウ！ サッゴーズ・サッゴーズ！

サゴーズ（マミ）「何かいや！」

巧「女としてサゴーズは受け入れにくいだろうな。」

ディケイド「さて、誰か紫コンボやらないか？」

巧「流石に無理だろ」

さやか「そーそーそれに手を出せる奴なんて……」

プテラ！ トリケラ！ ティラノ！ プットツティラーノザ  
ウルスッ！

プトティラ（まどか）「あはは……」

全員「「「おいしいいいい！ 何やっちゃってんだああああー！」」」  
「」

まどか「ついでに言うとな全てのメダルに適合したよ？」

ディケイド「ここにきてまさかの女神パワーとは……」

~~~~~

ほむら「ちょっと冷静になって考えてみたの」
巧「どうした？」

ほむら「これ……やったところで結局本編で変身できないじゃない
……orz」

巧「……おい、なんとかならないのか？」
ディケイド「……無理だな」

~~~~~

フォーゼ（マミ）「うふふ……宇宙に来ちゃって怖くない！」  
杏子「ここに新たな名台詞が誕生しつつあったのだった……」

To Be Continued .

**FILE 2**      **【陳情！ ライダー変身！！後編】**      **（後書き）**

今回はめちゃくちゃでした；

次回は番外らしいことやってみたいです。

FILE 3 【絶叫！ 擬人化は恐ろしい！？】

まどか「巧さん！ 聞きたいことがあります！」

巧「まどか！？ どうした？」

まどか「あの、龍騎のライダーの数ってわかります!？」

巧「え！？ まあ、色々あるけど、基本は13人だな………どうかしたのか？」

まどか「ほら、杏子ちゃんって、『ロツソ・ファンタズマ』っていう必殺技があるじゃないですか！」

杏子「あぁ〜ドラマCDか。あれは恥ずかしかった／＼／」

巧「それで？」

まどか「それでなんです、分身の数が13人なんですよ!？ ただでさえ龍騎に似ていると言われているのに、これって偶然なんですか!？」

巧「知らねえよ； まあ、確かに気になるな」

杏子「んなこと言われても………あれは偶然だよ。あれはそんなときの段階だったし。確か、末期は50人ぐらいだったかなあ」あくまで作者の想像です

巧「流石ガタキリバ適合者ここでもかぶった！」

さやほむ「ぎゃあああああああああああ!?!?!」

全員「………なんだなんだ!?!?!」

杏子「さやか！ ほむら……とキュウベえ？ 何があった！」  
キュウベえ「わけがわからないよ……」

???「うう……」 メイド服の少女

まどか「この娘誰!？」

巧「あれ……？ ここにあったオートバジンは……？」

???「はっ！ ご主人様ああああっ!!」 巧に抱きつく

巧「うおああああああ!!？」

さやか「ちょ……巧iiiiiiiiiiiiiiiiっ!!？」

マミ「あら、やきもち？」

杏子「ちっ」

さやか「違いますから後杏子は舌打ちすんな!？ 巧、その娘がオートバジンだよ!」

巧「ああ、そうなのk……って待てええええええ!!？ どうしてそうなった!？ こいつが俺のバイクだとおおおお!!？」  
オートバジン? 「きゃっご主人様ったら『俺のオートバジン』なんて……」

巧「変な解釈すんな! なんてこうなったんだ!？」

さやか「実は……」

~~~~~

キュウベえ「うわあああ!!」

さやか「うわっ!? 危なッ!」

ほむら「追い詰めたわ……これであなたも終わりよ……!!」 つつ
ラスコ

さやか「ちょ……転校生! 何してるのさ!」

ほむら「冥土の土産に教えてあげるわ」

さやか「冥土って何だよ殺す気か!？」

ほむら「これはいわば感情を持たせる薬! これを浴びたら最後、
キュウベえ、あなたには感情が生まれる!」

キュウベえ「それは困るよ! 感情が無いからこそ今の仕事をやれ
ているというのに……!」

ほむら「だからこそ……食らいなさい!!」バシヤア

キュウベえ「うわあ!」かわす

さやか「ちょ……巧のバイクにかか……!!」

オートバジン「薬かった

さやか「これだいじょ……ってなんか光りだしたああ!!?」

ほむら「しまっ……!？」

オートバジン「カツ!

~~~~~

さやか「……というわけで」

ファイズ「そうか……とりあえず、ほむらとキュウベえ……覚悟し

る！」 グランインパクト

ほむら「ほむばっはあああああああ！！」  
キュウベえ「キュッぷい！」

オートバジン「改めてご挨拶を。私、ご主人様に使えるスーパーハイテクバイク『オートバジン』です。『バジンたん』でもお呼び下さい」

SL「」

巧「おい……スマートレディイイイイッ！！？」

SL「まさか、こんなことになるなんて」

さやか「その人ですら混乱してるってことは、これ相当だね……ま、これはこれでいいんじゃない？ バジンたんかわいいし」

バジンたん「……気安く呼ばないで寝取られ女が」

さやか「誰が寝取られ女だああああ！！ 本編じゃまだ寝取られてないし！」

全員「「なにこれこの娘毒舌！？」「」」

バジンたん「大体なんですかあなた、ご主人様とフラグ立てて……

餓鬼風情がご主人様をくつつけるなんて思うなよ」

さやか「それは作者の気まぐれかなんかだって！ ていうか機械が何を言うかああああああ！！」

杏子「さやか落ち着け」

バジンたん「そうです。出番無しの言うとおりです」

杏子「んだと影薄いバイクのくせしやがってえええええ！ ていうか一応先行登場してんだよ！！」

マミ「あなた達少し落ち着きなさい！」

バジンたん「一番落ち着くべきは本編のあなたですよね？（15話現在）」

マミ「……orz」

ほむら「くくく……ざまあ無いわね」

まどか「こういう皆も悪くないかも……」

バジンたん「そうですねー」

巧「なんでほむらとまどかとは馬が合うんだ!？」

SL「S属性ですね分かります」　かくいうこいつもドSである

杏子「自分でいうのもなんだけど、あたしSだぞ……?」

さやか「あんた攻めだけど、実際は受けでしょ？」

杏子「ちくしゅうあたしに攻めの力さえあればさやかも……」

さやか「いやそっちの気ないから」

まどか「まあ、私に対してはドMだけどねー」　ぐりぐり

ほむら「まどかあああもつと踏みつけて!」

巧「お前らは何やってんだあああああ!」

さやか「……」　ごくり

巧「なんでお前はうらやましそうに!？　公式でM設定だからか!？」

バジンたん「そーですかーじゃあこれでも食らいなさい」　マシンガン発射

さやか「ぎゃああああああ普通に痛ええええええ!」　ズダダダダダダッ

杏子「さやかあああああああ!」

巧「おい……いい加減にしろおおおおお!」



バジンたん「！」ビクッ

巧「こいつらを傷つける気なら……お前捨てるぞッ!？」

バジンたん「きゃああああごめんなさいごめんなさいごめんなさいご奉仕しますからあああああ!！」

巧「んなもんいらんわあああああ!！あと謝るなら他の奴らに言えええええ!！」

バジンたん「皆さんすみませんでしたあああああ!！」土下座

さやか「はあはあ……流石所有者!」

杏子「何気に興奮してんじゃねーよドMさやか!てかあれいつ戻るんだ!？」

SL「下手すると……ずっとあのまま……」

まどか「なんだか怖いよ」

ほむら「感情がない機械でああなるのだから……キュウベえもまさか……」

ほむら「……はっ!？」ガバッ

ほむら「……夢落ち……よね。ていうかそんな薬無いし……」

ほむら「……キュウベえが感情持ったら持ったらでめんどくさくなりそうね……」

巧「で、これ結局何が書きたかったわけ?」

まどか「本編のうつぶんばらし……ですかね？」

さやか「むしろさ、オートバジンヤンデレそうだね。……浮気は許さない』って感じでさ」

杏子「そっぴやファイズって別のバイク乗ってたよな。ジェットなんたら」

オートバジン『P i P i（訳：そんなことないもん）』

**FILE 3 【絶叫！ 擬人化は恐ろしい！？】（後書き）**

次回、ファイマギ超スピノフは！

??? 「たのおおおお！！」

杏子 「誰だあんた！？」

士 「俺が連れてきた！」

巧 「何してんだお前はああ！！」

??? 「龍騎代表として……戦う！」

杏子 「おもしろいじゃん……変身！」

**FILE 4 【戦慄！ カードバトル】**

戦わなければ生き残れない！

巧 「最初に言っておく。あくまでギャグだからな！？」

## FILE 4 【戦慄！カードバトル】

さやか「しっかし、MADとか見ると本当にまどマギって仮面ライダーだなあ」

マミ「私の退場の仕方といい龍騎に似ているわね」

まどか「杏子ちゃんの必殺技とかね」

杏子「前回のくだりをまだ言うか」

士「よお」

まどか「あ、士さん」

巧「ディケイドか。どうした」

士「えーっと……ああ、アンコ。お前だ」

杏子「アンコじゃない！……で、何さ」

士「ああ、お前に文句があるっていう奴がいてな。ちょっと話してもらいたい」

杏子「はあ？」

「???」たのもー！」 灰色のオーロラから登場

さやか「誰かキタアアア！？」

まどか「あれ？ この子どこかで……」

サトシ「俺、マサラタウンのサトシ！」

全員「「「なんで来ちゃったの!!?」「」」

杏子「てかなんで!? まさかのポケモン世界からこんにちは!?!」

サトシ「あれ、アイリス?」

まどか「サトシったら子供ね!……って違うよ!?!」

マミ「中の人ネタねわかります」

さやか「中の人なんていない!」

巧「お前が言くと元ネタ的な意味で怖いわ」

さやか「どうせ三角関係ですよ寝取られましたよあたし病みましたよこんちくしょう!」

マミ「大きなお友達にしかわからないようなネタは避けて!?!」

キユウベえ「そもそもまどマギ自体その大きいお友達が見るものなんじゃないかな?」

まどか「キユウベえがまともに突っ込んだ!?!」

キユウベえ「むしろ僕はそういうキャラじゃないのかな?」

ほむら「で? 一体何が言いたいのあなたは」

サトシ「アンコ! 龍騎代表として物申す!」

杏子「誰がアンコだあああああ!?! てかお前もそれか!?! それ以前に代表って何だよ!?!?」

ほむら「中の人ネタね」 龍騎OPはサトシの中の人

サトシ「13体分身って……ライダーバトルそのものだろ!?!」

杏子「あれはその時だけだっつーの!?!」

巧「かといって50近くもそれはそれでなあ……」

さやか「ANK48ってか」

杏子「AKB48みたいに言うな!?!」

士「よし、というわけでレッツライダーバトル」

杏子「何でだあああああ!!?」

~~~~~

士「今回はリイマジ龍騎の世界でバトルだ」

ほむら「詳しく言うと、この世界のライダーバトルは比較的安全で、デッキを破壊されても強制的にミラーワールドから出されるだけよ」

サトシ「ここなら遠慮なく戦えるってわけだ!」

杏子「はっ! たかがガキンチョに負けるかよ!」

まどか「……そうでもないよ?」

杏子「は?」

まどか「サトシくんはこれまで幾たびの死線を超え、さらに超人的な運動神経を兼ね備え、一部では『スーパーマサラ人』って呼ばれてるの! アイリスちゃん情報!」

杏子「こいつ魔法少女じゃねえのか!?」

サトシ「少女言っな!?」

まどか「あ、あと女装させるとレベルが高い」

サトシ「それを言っなあああああ!!」

マミ「あらあらちよつと見てみたいわね」

サトシ「本気でやめてくださいそれだけはいやだ!!」

巧「デッキはくじでランダムに選ばれる、オーディンやらのデッキを抜いたライダーデッキから選ぶんだ!」

さやか「せっかくだから、あたし達もやりたーい!」

杏子「いやいや別にいいだろやんなくても!」

ほむら「確かに……ライダー気分を味わいたいわ……orz」

アイマギメンバーで一番の無力

杏子「……仕方が無い。やるか」 場合によってはオルフェノク倒

せそうな人

マミ「そうね……」 本編でオルフェノク倒してる人
???「お待ちなさい」

全員「「へ?」「」」

キリカ「私達も出るぞー!」

織莉子（以下『おりこ』）「私は付き添いみたいなものだけど……

まあ、キリカが出てくれて言うから……」

杏子「あんた漢字めんどくさいもんな」

おりこ「そんなこと言わないで!？」

巧「ていうかなんで出てきた？」

キリカ「ここにくれば魔法少女殺れると聞いて」

さやか「オイ;」

ほむら「よし決めた。こいつら殺すわ!」

キリカ「はっ! させないよそんなこと!」

士「まあ、それぐらいにして、くじ行くぞー」

巧「お前はスルーしてんじゃねえよ!」

~~~~~

ライア（おりこ）「……私の占いは当たるわ……」

タイガ（キリカ）「私は（おりこの）英雄になるんだ……」

全員「「はまり役だあああああ!」「」」

さやか「ぶっちゃけこれやりたくて呼んだろ作者あああああああ  
あ!」

マミ「それよりどうしてこんなにあつさり!？」

キュウベえ「これも全て乾巧ってやつの仕事なんだ」

マミ「なんですって!？ それは本当なの!？」

巧「オイコリアアアアア！」  
さやか「本当は作者の仕業なんだ」

~~~~~

龍騎（まどか）「つしゃあ！……これでいいのかな？」
ベルデ（ほむら）「まどかかわいいわまどか」
マミ「暁美さんがやばいわ！？」
巧「よりもよってそれか！！」

さやか「あたしは……これか」
巧「俺はこれっと……」
マミ「私は……これは……！？」

~~~~~

士「よし、対戦表だ！」

1回戦：マミVSまどか

2回戦：キリカVSほむら

3回戦：さやかVS士

4回戦：おりこVS巧



最終戦：杏子VSサトシ

杏子「あたしは最後か。当然だけど」

士「まずは一回戦からだ！」

龍騎「……マミさんは一体なんなんだろう」

巧「観戦はライダー裁判を利用してミラーワールド用カメラでお送りする！ 司会は作者、解説は鳴滝だ！！」

鳴滝「おのれディケイド！」

キュウベえ「関係ないよね」

鳴滝「これを言わないと落ち着かないのだ！」

巧「自慢すんな」

キュウベえ「わけがわからないよ」

作者「それで、マミさんは一体どんなライダーなんだろう」

鳴滝「おそらく作者のおまえ小ネタ好きから、シザースの可能性が高いだろう」

ゾルダ（マミ）「手加減しないわよ？ 鹿目さん！」

全員「……まさかの超火力うううううう！！？」

作者「おおっと、首仲間ではなくまさにファイナーレなゾルダとキタアアアアア！」

杏子「いやあんたの陰謀だろうが！？」



巧「まどかあああああああつ!!?」

作者「おおっと、煙がはれたぞおおお！ 果たしてまどかは……！」

龍騎「へ？」

ガイ「」

全員「」 そっちのガードベントが来ちゃったあああああ  
あ!!?」「」

作者「おおっと!? まさかの『そこにいたお前が悪い』が発動！  
歩くガードベントことガイが盾となったああああ!!」

鳴滝「おのれデイクイド！」

サトシ「ていうかあのガイは誰だよ!？」

ガイ（さやか）「あたしはただ…… 幸せになりたかっただけなのに  
……ガクッ」

杏子「さやかあああああああああッ!!!!」

作者「あとそれはインペラーだから！」

鳴滝「しかし、本人の結末があれだけに違和感が無い！ おのれデ  
イクイド！」

ほむら「ふう…… まどかが助かってよかったわ」フサア

全員「」 ていうかあれお前の仕業だろ絶対!!」「」

~~~~~

マミ「おかげで私達の戦いが無効試合になったわ……」

黒まどか「大丈夫です。あとでほむらちゃんにはサバイブでいたぶってあげますから」

巧「ひき殺す気か」

ほむら「うう……快感……」 まどかに踏まれてる

キリカ「これ結局私の試合も無効じゃないのか？ そして私はおりこに踏まれたい」

おりこ「あのねキリカ！」

杏子「ほむらがあの状態だからなあ！」

さやか「」 気絶中

士「ついでに俺達の試合も無効か」

作者「いくらなんでも展開めちゃくちゃじゃない？」

鳴滝「これも全て乾巧という男の仕業なのだ！」

巧「まさかの俺！？ お前はディケイドいじり専門だろ！？」

士「 変な解釈をするな！？」

士「おつと、もうこんな時間か。そろそろ帰るぞ」

サトシ「ええっ！？」

杏子「おい、あたし達なんもしてねえぞ！？」

巧&おりこ「俺（私）も」

士「よく考えて見る。こんな子供に戦わせられるか」

FILE 4 **【戦慄！ カードバトル】** **（後書き）**

何がしたかったのかって？ おりまギ勢書いてみたかっただけさ（え
今後はスピンオフではおりまギ勢もレギュラー入りです。

ちなみに巧が当てたデッキはシザースでした（え

FILE 5 【談笑！ 必殺技はロマン】（前書き）

今回から織莉子（以降おりこ）、キリカ、ゆまがレギュラー参戦します。

FILE 5 【談笑！ 必殺技はロマン】

おりこ「というわけで」

キリカ「私達もスピノフにレギュラー出演！」

ゆま「わーいキョーコー！」

杏子「ゆまー！」

さやか「……ちっ」

巧「なんだこのドロドロになりそうな予感……」

マミ「杏ゆまさやですわかります」

まどか「私達だけじゃあまり盛り上がりませんからねえ」

ほむら「ところであなた達本編にはでるの？」ジャキッ

全員「……とりあえず銃をしまえ……」

おりこ「一応登場説がさやかれているけれど……それよりなんなのこの平和な感じは。本編のシリウスはどこに……」

巧「これこそスピノフオリエー」

さやか「ていうか銃突きつけられといてそんなこといえるあんたがすげえよ」

まどか「そういえば！」

さやか「どうしたまどか」

まどか「マミさんって仮面ライダーみたいに必殺技ありますよね」
マミ「そ、それで？」

まどか「私達もあつたら必殺技がほしんですよ。まあ、私はわからないけど……」

さやか「本編だとあたし人間設定だかねまだ……」

杏子「まだって予定はあるんかい」

巧「でも、お前らも必殺技あるだろ。……ほむら以外」ポータブルで

まどか「ついでに言うとかずマギの魔法少女は必殺技持ってますよね」

ほむら「なんなの、この無駄にむなしい感じは……」 執筆時公開
されていない

おりこ&キリカ&ゆま「」「私達に謝ろうか」「」 無い以前に出
番が絶望的

まどか「それに、私気になることがあるんです」
全員「」「？」「」

まどか「あるクロスSSでさやかちゃんが『ロイヤルストレートフラッシュ』使ってたんですけど、実際魔法少女に仮面ライダーの必殺技が再現できるのかなって」

巧「そういえばあったなそれ」

杏子「マミならできんじゃない？ シャウタとか」

マミ「それはどういうこと！？ まさか歌詞関係！？」

杏子「いや、シャウタの必殺技の『オクトバニッシュ』、あれウナギのムチで相手を空中に投げ飛ばしてとどめにタコ足ドリルじゃない？ あれリボンで再現できると思うんだよ」

さやか「なるほどねー」

まどか「でも、そういつたらさやかちゃん再現できそうなの多いよね」

さやか「へ？」

巧「剣を使う必殺技はほぼ出来そうだし、二刀流にすればアギトシヤニングとかガタツクとかも再現できそうだしな」

杏子「あと刀身操って電王の必殺技とかな」

(妄想) さやか「必殺！ あたしの必殺技パート2！」

全員「……違和感がない」

さやか「オイ」

ほむら「……というか、美樹さやかにそんな能力があると思うの？」

杏子「あるかもな。もうちょい話長かったら色々と設定使えたのになー」

さやか「あたしへの嫌味かそれは」 武器に未使用ギミックのある人
マミ「本編で美樹さんの未使用ギミック使えるのかしら」

さやか「そもそもまだ魔法少女じゃ無いですからね」 18話現在

杏子「つーかさやかだけ万能過ぎないか？」

さやか「そう言ったら杏子だって幻惑の魔法使えばバーニングザ
ゴとかGKB48とか出来るじゃん！」

杏子「なんなんだそれは；」 ギャレンの『バーニングデバイド』
、オーズガタキリバの分身能力です

さやか「あと、インペラーのとか」

杏子「あたしはただ、幸せに……ってこれはお前向きだろどっちか
というと！」

さやか「台詞の意味だろこんちくしょう！」

マミ「そういえば、おりマギのキャラクターにもいるかしら」

巧「キリ力ならタイガじゃないか？ ツメだし」

キリ力「私二人は必要じゃないかな？」

ほむら「美国織莉子は、むしろタブードーパントね」

おりこ「ナスカメモリ使いましたようか！？」

杏子「ゆまは……思いあたらねえ；」

ゆま「ぷうううう……」

巧「ハンマー使うライダーって……キバがいたな」

さやか「やったねゆまちゃん必殺技ができるよ！」

ゆま「わーい！」

杏子「ゆま騙されるなああああ！！ それ暴行フラグ！！」

マミ「もしかして『やったねたえちゃん』！？ 分かる人いるの！
？」 ちなみに作者はピクシブ大百科で知りました

ほむら「そう思うと、巴マミのあの再現率は高かったわね」

マミ「草加ルート辿らせるわよ！？」

シャルロット「よんだ？」

マミ「きゃああああああああああああああ！！」

さやか「なんでここに魔女がいるんだ！？」

SL「私が呼びましたー」

全員「「「おまあああああああ！！」」」

ほむら「ナイスよ。さあ、巴マミの頭を食いちぎりなさい！」

シャルロット「わたしにめーれーするなー」

ほむら「え！？ どうしてよ！？」

シャルロット「うるしやいわたしにしつもんしゆるなあー」

巧「このアクセルだお前は」

さやか「てか転校生は本気で一回自分の罪数えろ！」

まどか「どうせ私関係が全般だろうけど」

ほむら「失礼ねまどか。せいぜい下着とかあなたの口つけた食器ペ
ロペロしたぐらいよ！！」

全員「「「マジでド変態だああああ！！」」」

黒まどか「……シャルちゃん。あの変態食ってよし」

巧「待て待て待て待てええええ！！？」

ほむら「ただいまマミられ中

黒まどか「さて……と」手パンパン

全員（（怖ええええええええええっ！！））

おりこ「私達、なんて娘を相手に……」

キリカ「なんだろう人間なのに勝てる気がしない」

マミ「暁美さん大丈夫なの？」

杏子「ギャグだから問題ない！」

ゆま「ねーねー」

杏子「どうした？」

ゆま「なんでマミおねーちゃんはその魔女に勝てたの？」

全員「「「ちよっ！？」」」

マミ「それはね、私がぼっちだったからよ……orz」

ゆま「へーおねーちゃんってぼっちのほうが強いんだね！」

マミ「アアアアアアアアアアアアアアアアア！！！」

まどさや「マミさんが崩壊したあああああ！！！」

杏子「ちよ……ゆまあああああ！！！！」

ゆま「にぱー」

巧「子供って残酷！！！」

マミ「orz」 心が折れた
ほむら「 瀕死状態

おりきり「なにこれひどい」

おりこ「ここは平和じゃなかったの!？」

巧「時折こんな状況になる」

さやか「ていうかカオスが普通」

キリカ「なにここ狂ってる」

杏子「お前が言うか!？」

さやか「あ、必殺技といえばクラヒ!」

まどか「ついに全ライダーに超必殺技がついたね!」

杏子「しかもファイズはついに通常クリスマスも! あとカイザ!」

巧「とりあえずガッツポーズしたな知ったときは」

キリカ「私わかんない」

さやか「……てか今の所これただだべってるだけだよね」

杏子「いんじゃね別に。平和なら」

巧「あいつら見ても言えるのか」

ほむら「 もはや死の淵

マミ「 ふて寝

おりきり「……はたしてここに来てよかったのだろうか」

ゆま「つづくー!」

FILE 5 【談笑！ 必殺技はロマン】（後書き）

次回予告！

巧「ファイマギメンバーで大喜利大会だ！」

さやか「どうしてそうなった」

杏子「作者の思いつき」

マミ「ちよっ!？」

全員「「あははははは!」「」」

巧「……ぷっ……!」

マミ「いっそ大声で笑ってくださいよおおお!」

FILE 6 【爆笑!？ 大喜利大会】

巧「あ、座布団少ない奴には罰ゲームな。確か、『（バギューン）』だ」

全員「ええええええっ!!?」

まどか「こんなのってないよ!」

笑わせなければ生き残れない!

FILE 6 【爆笑！？ 大喜利大会】

巧「ファイマギメンバーで大喜利大会だ！」

さやか「どうしてそうなった」

杏子「作者の思いつき」

巧「正直、今更感があるな」

ほむら「作者、大喜利好きだものね」

キリカ「大喜利か……昔は好きだったな」

おりこ（ごめんなさい。以前のあなたが笑ってるイメージが全くわからないわ……）

キリカ「それは仕方ないさおりこ。私見てて笑ってないし」

おりこ「考えていたことが……って私達は大抵筒抜けよね」

巧「まあしょうがないし、始めるか！」

SL「というわけで、司会のスマートレディのお姉さんです」

巧「どうでもいいけどアルファベットが半角だったり全角だったりして統一感がないな。司会その2乾巧だ」

まどか「えっと……一生懸命頑張ります！ 鹿目まどかです！」

ほむら「……曉美ほむらよ」

マミ「これを読んでくれている人達の腹筋を円環の理にでも導こうかと思えます巴马ミです！」

さやか「マミさんメタいです！ あ、美樹さやかです！」

キリカ「一生懸命頑張るぞー！ 呉キリカだ！」

SL「さて、回答者が出揃ったところで座布団運びのご紹介です」

杏子「『きょうこ』より『あんず』と打ったほうがいいことに定評のある佐倉杏子だー！ アンコじゃないだけマシ！」

ネクト』に!」

巧「お、いいなそれ。1枚やってくれー!」

ゆま「よいしょっ! よいしょっ!」

杏子「ゆま頑張れー!」

さやか「もう杏子もお母さん呼ばわりされるよ」

杏子「誰が母だ!？」

ゆま「そうだよ! キョーコは『聖女』だよ!」

杏子「おい!？」

マミ「はい!」ノ

巧「お?」

マミ「シザースでカブトを倒したいです」

ほむら「シザースがあなたで私がカブト? なにそれ負ける気がしない」

巧「ゲームだからこそその組み合わせか……はい他」

マミ「貰えなかった……orz」

さやか「あ、そうだ! はい!」ノ

SL「はいさやかちゃん!」

さやか「ブレイドVSタイガ!」

巧「さやかVSキリカの擬似対戦!？」

SL「とりあえず一枚ね」

おりこ「はいどうぞ(こうでもしないと出番が……;)」

ほむら「……はい」ノ

巧「よし、ほむら」

ほむら「オーズのクライマックスタイムをシャ歌に」

全員「「それはシャウタへの冒険か!？」」「」

さやか「あんたシャウタの超必殺ないだろうことを知って!？」

超必殺でシャウタじゃないのにシャ歌が流れるとか酷すぎる!」

ほむら「肝心なところで手を抜くことに定評のあるクラヒにコンボ毎の超必殺なんてあるわけないわ!」

マミ「もしあつたら?」

ほむら「スピンオフ一生出ないわ！」

まどか「どうかコンボ毎に超必殺ありますように」

SL「ほむらちゃんに座布団1枚」

巧「……あ、座布団少ない奴には罰ゲームな。確か、『しばらくスピンオフの出演無し』だ」

全員「「ええええええつ!!?」「」」

まどか「こんなのつてないよ！」

巧「ついでに言うと、作者が最近コラボしたいって愚痴ってるみたいだからな」

杏子「関係ねえ!!」

さやか「……よし! ビリは避けよう！」

杏子「あたしなんていまだにスピンオフの住人扱いなのにこれ以上削られてたまるか!？」

さやか「いやあんたは大丈夫でしょ参加してないし!？」

SL「さて、飽きたんで第2問」

キリカ「ああつ!? orz」 今浮かんだ

おりこ「ちなみになんて？」

キリカ「……『ライアでタイガをボコボコにしたい』」

おりこ「言っておくけど私はライアじゃないわよ!? そしてあなたはDMなの!？」

キリカ「君のためなら私は変態にもなれるよ!」

おりこ「じゃあ止めて頂戴!!?」

SL「第2問! あなたは地獄兄弟の仲間入りをしました! さて、地獄に堕ちる原因となつてしまった理由とは!？」

巧「本気で笑 じゃねえか」

キリカ「……おし! いくぜ!」ノ

巧「おし、キリカ！」
キリカ「恋人寝取られた！」
杏子「さやかのことかああああああ！！！！」
さやか「お前ら喧嘩うつてんのかああああああ！！？」
SL「2枚あげてくださいーい」
さやか「ちくしょうはい！」ノ
巧「じゃあさやか」
さやか「マミられ」
マミ「みーきーさーんー」 マスケット銃構える
さやか「すいませんでしたっ！！」
巧「……さやかの一枚もってけ」
さやか「うわああああああああ！！」
ほむら「……爆死？」
さやか「誰がガタツクだ！？」
マミ「というわけではい」ノ
SL「はいマミちゃん」
マミ「リア充見てるのが辛くなったから」
全員「……おい」
マミ「リア充になれないなんて……死ぬしかないじゃない！」
巧「……3枚やって」
杏子「マミの奴無理やり座布団ゲットしやがった！」
さやか「……はい！」ノ
SL「はいさやかちゃん！」
さやか「絶望して心中図ろうとした人に殺されかけた」
マミ「……」 マスケット銃構える
巧「……マミの態度が悪いからマミの座布団一枚さやかに」
マミ「しまった！」
さやか「よっしゃあ！」
ほむら「……ついでに言えばその原因あなたじゃ」
全員「……下手なネタばれ禁止！！」

巧「ここまでの座布団……いや、Count The Japan
esse cushion's！ 現在、まどか達の座布団は……」
さやか「何でオーズ！？」

まどか：1枚

ほむら：3枚

マミ：2枚

さやか：1枚

キリカ2枚

杏子「まどかどーした？ 第2問喋ってすらいらないぞ？」

まどか「考えてたら時間すぎちゃった……ティヒヒ……」

さやか「まずいなあ……このままだとまどかと一緒に最下位だ……」

SL「はい第3問！」

巧「『にんげんだもの』、様々な格言の書かれた一冊だ。そこで、

『だもの』の前にもしる格言をいれるのが今回のお題だ！

これが最後の問題になるから頑張れよ！」

マミ「はい」ノ

SL「はいマミちゃん」

マミ「間違えてもいいじゃない、相手が正しすぎるんだもの」

まどか「それママの名言参考にしました！？」

SL「はい、マミちゃんに2枚！」

ほむら（まずいわね……トップを取られた……！）

まどか「はい！」ノ

巧「よし、まどか！」

まどか「何も怖くなくていいじゃない、魔法少女だもの」

マミ「鹿目さん！？」

巧「マミから一枚抜いてまどかに」

さやか「おし、はい！」ノ

SL「はいさやかちゃん！」

さやか「必殺技作ってもいいじゃない、魔法少女だもの」

巧「マミの抜いてさやかに」

マミ「なにこれ私いじめ！」

ほむら「はい」ノ

巧「ほむら」

ほむら「心中図ってもいいじゃない、絶望したんだもの」

SL「ほむらちゃんに2枚！ マミちゃんからとってくださいねー

」

マミ「ちょっと待って！？」

キリカ「はい！」ノ

巧「キリカ！」

キリカ「お礼をクレープにしてたっていいじゃない、食べたかったんだもの」

SL「はいマミちゃんから一枚抜いてキ」マミ「もう止めて私のライフと座布団は0よおおお！！orz」

巧「じゃあ答えるよ！ ちゃんとキリカに2枚やっつけー！」

マミ「……はい！」ノ

巧「マミ」

マミ「不器用でもいいじゃない、猫舌だもの！」

巧「……あ？」 怒りのブラスターオーラ

マミ「……しまった」

巧「第3問、これで終わり！」

マミ「すみませんごめんなさいそれだけはあああああ！」

巧「……じゃあ最後に一人」

マミ「は！黒まどか「はい！」ノ」

マミ「ちよつ……鹿目さん！？」

黒まどか「いいですよねー？」 破壊者オーラ

巧「よしまどか」

マミ「いやあああああ！！　せめて……鹿目さんが0枚になれば……！」

黒まどか「厨二だろうとぼっちだろうと死ぬしかなくうとそんなのどうでもいいじゃない、マミさんだもの」

マミ「アアアアアアアアアアアアアアアアアッ！！！！！！」　発狂

巧&SL「まどか（ちゃん）に3枚！」

杏おりきりさや「……最悪だあああ！！！！？」

ほむら「よくやったわまどか！」

オートバジン『P i P i（ざまあw）』

ほむら「！？　バジンに悪寒を感じた

結果

まどか：5枚

ほむら：5枚

マミ：0枚

さやか：2枚

キリカ：4枚

結果：まどか、ほむら同率一位。マミビリ。よって今後のマミの出番しばらく無し！

マミ「いやあああああああ……あ……」　フェードアウト

~~~~~

マミの代わりに置かれた以前の短編で使われたシャルロット第2形態を模した筒に入ってたマミられたマミ風の棒」

全員「……長いわ！？」「」

キュウベえ「さてまずは杏子からだね」

杏子「シャルロットをレギュラーにしてくれ」

全員「「「なんで!?!?!」」」

杏子「……あいつの作った菓子うまかったから」

キュウベえ「というわけで、今日から君は仲間だ」

シャルロット（以降『シャル』）「わーい」

ゆま「ゆまはねー、『主役回』がほしいー!」

キュウベえ「そこは作者との相談だね」

おりこ「私はキリカとの最低限の平穩を」

キュウベえ「それは……流れしだいだね」

ほむら「まどかをほむほむしたいd黒まどか「私はその無効化で」

」

ほむら「orz」

巧「お約束乙」

FILE 6 【爆笑! ? 大喜利大会】（後書き）

というわけで次回からマミさんはしばらく出ません（ひでえ

その代わりシャルがレギュラー入りです。さて、シャウタの超必殺はあるのか……! ? 個人的にはあつてほしい! ……あ、ついでに次回からは啓太郎と真理ちゃんと出しますね ;

ちなみにコラボやりたいというのは本音だったり。募集つてわけじゃないですけど。来たとしてキャラを正しく書けるか分からないんで ;



FILE 7 「談笑！ 超ゲストと新展開？」

前回のあらすじ：大喜利で負けたマミはスピンオフにて謹慎を食らった。

マミの代わりに置かれた以前の短編で使われたシャルロット第2形態を模した筒に入ってたマミられたマミ風の棒「

杏子「長いっつーの！ つーかまだあったのか！」

さやか「ていうかマミさんあの後ケーキやけ食いた拳句にロールケーキにシャルロットって書いてフオークで滅多刺ししてシャルロットの怒り買ってマミられたよね」

杏子「自業自得だな。食いモン粗末にすつから……」

さや杏ほむ「「とりあえず、後日談書いてくれたトーマスさんに感謝」」「

さやか「でもさ、ちょっとかわいそうな気もするね」

杏子「出番無いんだもん。まあだからといってあれはなあ……」

ほむら「陳情……ね」 口のバラ啞えながら

杏子「ほむらっ！？」

さやか「血い出てる！ 茨で唇切ってる！」

ほむら「あら本当ね……まどか！私の唇を……！」

まどか「この雑巾で拭いてろ」 雑巾投げる

ほむら「ぶふっ！？」 雑巾顔にかかる

さやか「……クサッ！ なにこれ牛乳拭いて長時間たった雑巾じゃん！」

まどか「犬にはこれでいいだろ」

さやか「なにこれまどかじゃない」

まどか？「まどかだよさやかちゃん」

マミ？「止めなさい鹿目さん。迷惑かけないの」

さやか「」

杏子「」

ほむら「」

マミ? 「」?

三人「「「ちよつと待てなんでここにマミ(さん)(あなた)がああああ!?!?」「」

マミ? 「居ちゃいけない!?!?」

杏子「お前罰ゲームで謹慎食らってんだろ!?!? 出てくんな!?!?」

マミ? 「それはここの私の話でしょ?」

杏子「そうだよk……ここの?」

巧「あ、もう来てたのか」

さやか「巧、これどういうこと?」

まどか「あれ!?!? 私!?!?」

ほむら「まどかが二人!?!? なんて私得!?!?」

さやか「オイ」

杏子「どういうことだおい!?!? さやかもほむらも二人居るぞ!?!?」

さやか? 「ここがファイマギの世界か」

ほむら? 「ほむ!?!? ほむほむっ!?!?」

さや杏子まど「「「「いやいやほむら(ちゃん)がおかしい!?!?」」

ほむら「なんで『ほむ』しか言えないのもうひとりの私!?!?」

??? 「あ、ごめんなさい迷惑かけちゃったみたいで!?!?」

さやか「おお!?!? なんだこの男の娘は!?!?」

さやか? 「あかりは僕っ娘だぞ」



まどか「巧さんもメタ発言は控えてください！」

「マミ」それにしても、ここの私達ってなんだか個性が……」  
まどか「個性ないとても？」 黒オーラ放出中

さやか「そっちのマミさんいえどぶっ飛ばしますよ？」

ほむら「ほむら流『パイロキネシス』食らいたいの？」

杏子「殺すぞ」

「マミ」そっちの佐倉さん少しはオブラートに包んで！？ という  
か何この私の扱い！？」

巧「前回で開花した、マミ弄りだ」

「マミ」orz」

「ほむら」ほむほむw（訳：ざまあw）」

「まどか」それにしてもマミさんすみすぎじゃ？」

ほむら「基本『巴マミ』というキャラはぶれることがないから」

「マミ」ちよっ……！？」

ほむら「ついでに言うところとちよつとした打ち合わせの際にあつちの作者から『マミ：お姉さんでまとめ役で重度の厨二病。技名はイタリア語。あとダディメンタル。』って説明されてたわよ？」

さやか「メタすぎるぞ転校生！？」

杏子「ていうかなんて通常運行」

ほむら「こっちの巴マミと一切違和感無いじゃない」

黒まどか「もう『J』いらなくないですか？」

「マミ」私の存在全否定する気！？ ていうかここの鹿目さんも黒い！？」

暗黒円環悪魔神まどか「……どういことですかあ もっかい言  
つてみる」

「マミ」「ごめんなさい！」

さやか「なにあのまどか！？」

あかり「たまーに……と言いますが、ああなっちゃんですよボク達の方のまどか！」

巧「あれが噂の『暗黒円環悪魔神まどか』か……」

「さやか「こらまどか！ そんな娘は……こうだ！」 くすぐり攻撃  
「まどか「キヤハハハッさやかちゃんくすぐりたいよお！」  
ファイマギ組「「戻った!?」「」」

あかり「なぜかさやかのくすぐりで戻るんだよ；」

「ほむら「ほむっ！」

あかり「ついでにほむらはこういうキャラ設定立てた頃からずっと  
ああなんだよ； せいぜい自分の名前が『ほむ』としか喋れなくて；

」

ほむら「どうしてそうなったああああ!!」

「まどか「ほゝむらちゃん」

「ほむら「ほむほむ」 頭なでなで

ほむら「……でも、なんだか悪くないかも……」

「さやか「おいそっちの転校生!?!」

まどか「ところで啓太郎さん達は？」

巧「おりこの家でお茶してる」

~~~~~

その頃、おりこの家の庭

キリカ「はにやあゝ平和だゝ」

おりこ「出番減ってるけど、なんだか今回は参加しなくて正解だった気がするわ」

真理「シャルロットの作るお菓子おいしいわね」

ゆま「ねー」

啓太郎「はいシャルロットちゃんチーズケーキだよ」

シャル「わーい」

~~~~~

ファイマギ組「「なんだろう、前回に続き参加してる方が負け組みたいな感覚」」

杏子「ていうか今日ゆまいねーのかよお……」シュン……

「さやか「まあまああたしらがいるじゃん」

さやか「そーそー」

杏子「Wさやか……そうだな……よし！今日はWさやかで両手に花じゃあああああ！！」

さやか「ちよつと杏子！？キャラが壊れてるって！」

「ママミ「落ち着きなさいそっちの佐倉さん！」

杏子「るせーばーか！こっからはR-18指定タイムだぜええええええ！！」

全員「「どうして壊れたあああ！！」」

まどか「そういえば最近杏子ちゃん言ってたよ！『欲求不満』だつて！」

さやか「なにそれ！？」

あかり「杏さやですわかります」

「ママミ「むしろ杏さやさやね」

ほむら「ていうかもう一人の自分が来なかったことへの苛立ちやそのほか様々な感情が爆発してしまったようね」

ファイズ「とりあえず、頭冷やせ」 クリムゾンスマッシュ

杏子「ぐばあ！」

全員「「某魔砲少女みたいに力で押さえつけた！？」」

あかり「助かりました！こっちのさやか下手すると覚醒しちゃうんで……」

「さやか「覚醒？」

黒まどか「ああ……こんな感じ？」

Wさやか「いだあ！」 蹴られた（しかしある程遠慮気味）  
全員「ナニヤツテンダアンタ!?」

暗黒円環悪魔神まどか「あゝ、なんか面白そう」

「ほむら「ほむブツッ！」 暗黒円環悪魔神まどかに蹴られた（但しフルパワー）」

ほむら「ぎゃあー！」 同上

全員「やばいどっちのまどかも黒覚醒iiiiiiiっ!」  
「Jマミ」でも何でかしら本気じゃない分そっちの鹿目さんが優しく見えるわ!

あかり「いやでもやってることは同じですから！」

巧「残念！」

「Jマミ」古っ!? どのギター侍ですか!?

さやか「ちよっ……痛気持ちいい!」

「Jさやか「いやん……もつと踏みつけてええええっ!」

全員「そしてWさやかも覚醒iiiiiiiっ!」

あかり「こっちのさやかは隠れ超DMなんです!」

巧「こっちのさやかは公開DMううう!」

「Jマミ」結局どっちもDMなの!?

杏子「ぐっ……まずい、早く手をうたねえと!」 元に戻ったけど

ボロボロ

あかり「でも……こっちのさやかがあれじゃ……!」

暗黒円環悪魔神まどか「おら喘げ犬」

「Jほむら「ほむっ! ほむっ!」 興奮状態

ほむら「……」

暗黒円環悪魔神まどか「あれ? そっちのほむらちゃんはどうしてだんまりなのかな?」

ほむら「……違うわ」

暗黒円環悪魔神まどか「あ？」

ほむら「こんな蹴り……私のまどかじゃない！ だから興奮できないわあああ！！！」 変身

暗黒円環悪魔神まどか「なっ！？」

全員「「おおっ！ ほむらが立て直した！ 理由が不純だけど！」

「」

ほむら「……ハイパークロックアップ！」 盾稼動

ほむら以外「 止まってる

ほむら「……よしっ！ 今しかない！」

……カチッ！

ほむら「どう？」

「さやか「……」 快樂におぼれた顔

暗黒円環悪魔神まどか「！？」

さやか「あれ！？ いつの間に転校生が暗黒円環悪魔神の脇を上げてあっちあたしを抱えてその腕を暗黒円環悪魔神の脇に……！？」  
暗黒円環悪魔神まどか「なっ……！？」

「さやか「……ふえっ？ なにこの状況！？」 正氣に戻った

ファイマギ組「「おおっ！ 戻った！」」

あかり「ついでに言うと言醒したときのことは覚えてないんです！」



ほむら「さあ！　くすぐりなさい！」

「さやか……よくわかんないけど……くらえ！」

暗黒円環悪魔神まどか……ア

全員「怖い！」

「まどか「くすぐったいよお……アハハハッ！」

~~~~~

Wまどか「……みんなごめんなさい！」

「さやか「まあまあしょうがないって！」

杏子「何がしようがないんだか」

「まどか、特に私なんて……」

ほむら「気にしないことね」

全員「いや今後からするべきだろ！」

さやか「結局今日もただべってるだけだったけど（途中からあれだったけど）、楽しかったよ！」

あかり「ボク達もです！　いつか、また会いましょう！」

ほむら「特にあなたは大きく動かしてもらえなかったものね」
あかり「orz」

全員「「ほむら……お前の罪を数えろ！」」

ほむら「しまった……ごめんなさい失言でした許してください……ア
ッー！」

ほむらは全員にリンチされた挙句に丸一日つるされましたとさ

SL「めでたしめでたし」

全員「「いやめでたくないし！」」

FILE 7 「談笑！ 超ゲストと新展開？」（後書き）

はい、というわけでコラボ企画第一弾、Light or Dark
kさんでしたー！ 個人的にはもうちょつとあかりを動かしたかつ
たなあ； お気に召していただけたらと思います。

次回もコラボ行きますんでよろしくお願いします！ はたして、次
は誰でしょう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1068x/>

仮面ライダー×魔法少女 555 MAGIKA 超スピンオフ！

2011年11月21日12時09分発行